

国内研修レポート

今回、仮設住宅にお邪魔させてもらい、たくさんの方々とお話しする機会をいただきました。夏祭りをテーマにし、企画から3年生の先輩方を中心に行って来ました。私は初めて被災地を訪れることに不安を覚えていましたが、仮設住宅の方々をはじめ、あたたかく迎えて頂きました。

何か少しでも力になりたい、少しでも笑ってもらいたいと思ったことがきっかけで参加させていただきました。実際に仮設住宅の中にお邪魔させて頂き、2011年から約4年間過ごしてきたんだと思うと、胸が苦しくなりました。よくテレビなどのメディアで「なんでこんなところに・・・」という声があることを耳にしていたので、自分では分かっているつもりでしたが、実際に目の当たりにすると、自分の考えがどんなに甘かったか痛感しました。関東の方ではマンションやアパートに住む人も少なくないですが、地方では一軒家が多いと思います。なので、なおさら仮設住宅のようなみんなでご飯を暮らすことに慣れていない人が多く、大変だったんだと思いました。また、その仮設住宅の中に小学生は一人だけでした。その子は、とても明るい子で、たくさん笑顔を見せてくれました。しかし、私はその空間に小学生が一人しかいないことに悲しさを感じました。子供には、もっとつながりや友達との絆が必要だと思ったからです。ですが、私の仮設住宅に小学生が一人しかいないから絆を築くことができないという考えはまったくの間違いだと気付きました。きっかけは、その子と同じ小学校の子が遊ぼうと声をかけに来て、夏休みに学校のプールに一緒に行ったりしているというお話を聞いたことでした。このように、私は同じ場所にいるから絆ができるのではなく、互いに互いを思い合う事が必要なんだと教えてもらいました。また、「みんなと暮らして今まで以上にみんなと話す機会ができ、支えあう事が出来て、またボランティアに来て下さる方々と出会う事が出来たことに変わりはないし、感謝していることも多い」というお話も聞くことができ、今まであったことをプラスに変えていき、少しずつでも前に進もうとしているのだと感じることも出来ました。私も東北出身で震災時に、クラスに被災地の子が転入してき、一緒に過ごすことができ、一生ものの友達もできました。こう思えるようになったのも時間がたち、精神的にも少しずつ余裕ができてきた証拠だと思いました。被災地に行くことができ、感じたことは人と人が出会い、支えあうことはとても強いものを生み出すということでした。震災が少しずつ進んでいることも事実ですが、だからといって忘れていいものではありません。これからの私たちの子供、孫、その子供と同じような出来事が起こらないように、一つでも多くの命を救うために、伝えていかなくてはならないものだと思います。

震災が起こったとき、テレビで放送されていた津波に、まったく現実味がなかったことをよく覚えています。津波によって家や車、船が流され、見る見るうちに沿岸の町を呑み込んでいく様子は、まるで映画のワンシーンでも見ているようでした。そのくらい衝撃がすごいものでした。それから一週間以上、テレビで放送される内容は震災の事ばかりでし

た。日に日に亡くなった方の数が増えていくばかりで、明るいニュースなどありませんでした。福島県の原子力発電所の崩壊によって、放射線汚染が起こり、大震災というものの恐ろしさというものをあらためて感じると同時に、このような震災にどうように対処しなければいけないのか、考えさせられました。そして、今回岩手県、被災地を訪れ、たくさんの方のあたたかさにふれることができ、悲しいことがあったぶん、幸せなこと、嬉しいことも増えてくることを実感できる貴重な体験をすることができました。

東日本大震災において、まだまだ流れていない情報、まだまだ知られていない現状、現実、まだまだ進んでいない復興、たくさんあると思います。たとえば、福島県の原子力発電の問題では、地元に戻れない人がいることや、まだまだ安心できない危険性などがあります。また、震災当時には風評被害があり、たくさんの方の関連死をまねきました。私が岩手県を訪れて見た光景には、まだがれきのようなものが残っており、道路のガードレールなど、ところどころに震災のあとが残っていました。歩いている途中には、ここまで津波がきたんだという事を教えてくれる線があり、津波の大きさと恐ろしさにゾットしたことをものすごく覚えています。震災が起きてすぐ、少しでも力になりに来なかったことを後悔させられるくらい衝撃を受けました。4年経った今でさえ、私は見てぞっとしているのに、当時の状況はどんなに悲しいものだったのか、テレビや新聞などのメディアでは伝わらないものがあつたと思います。そして、その状況を少しでも忘れないために、各地の被災地では様々な工夫をしていることを、被災地に足を踏み入れることによって実感でき、またその工夫がどんなに大切なものなのか感じるすることができました。

東日本大震災から4年経った今、今までを見つめなおす事も必要ですが、これからをどうするかが必要であるという事を、現地に行って学びました。私は、これから必要な事はまず忘れない事、伝え続けることが必要だと思います。ですが、やはり実際に経験していなければ、どうしても他人事のように思ってしまうし、被災者の気持ちを分かることは難しいと思います。ですので、私は震災に近づくということを意識する事が必要だと思います。実際に被災地に行ってみるのが一番身近に感じる事ができると実感しましたが、他にも、被害に会った人の話を聞く、本を読むなどをしてみることもいいのではないかと思います。そのためにもメディアなどが忘れないために情報を発信したり、忘れない工夫をした放送をすることや、私たち大学生が被災地に行き、感じたことを伝えることが必要だと思います。

まだ自分にもできることがあるのだと実感する事ができた二日間は、私の中で大きな進歩になりました。毎年、震災に関する内容は必ず耳にしてきて、なにかできることはないかと考えましたが、やはり難しいのではないかなというのが正直な感想でした。ですが、今回岩手県を訪れ、忘れない事の大切さに気づき、たくさんの方とかわることができたことは、震災だけではなく、人生においてプラスになると思います。最後のあいさつで、ここで体験したことはこれから先、必ず力になるとお話して下さった方がいて、本当に心からこのような経験ができて良かったと感じる事が出来ました。ボランティアに行く環

境が整っている事にも、一緒に行く仲間がいることにも、感謝ですし、このように感じる
ことができたのも、被災した方々のお話を聞いたことがきっかけだと思います。実際に被
災地に行くことは不安であり、なかなか一歩を踏み出せなかったですが、いざ一歩踏みだ
してみると、自分が思っている以上の事を得られるのだと実感する事ができました。これ
からも少しでも被災地のためにできること、忘れないために伝えることを続けていきたい
です。